

前置き

今回の「プラチナ四半期レポート」は 2020 年第 2 四半期におけるプラチナ需給の動向分析と最新情報に基づく 2020 年全般の展望を掲載し、プラチナ投資に役立つ情報や注目すべきトレンド、プラチナ投資商品に対する我々のサポートについても触れた。当レポートの分析とデータ (6 ページより掲載) はメタルズフォーカス社によって WPIC のために独自に作成されたものである。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響は第 2 四半期に入っても続いており、感染症拡大阻止策としてのロックダウンは世界中で経済活動の急激な縮小と市場変動をもたらした。プラチナ市場の需要、供給はともにその影響で前年と比べ大幅にダウンしている。しかし、コロナ禍とは無関係の供給サイドの問題と現物投資の健全な需要のおかげで、プラチナ市場へのインパクトは危惧されていたレベルではないことも明らかになってきている。今年のプラチナ需給の予測は流動的で、特にロックダウン措置解除の時期と規模、感染症拡大の第二波の可能性と影響、効果的なワクチンの開発、そして各国政府の感染症拡大阻止のための経済対策の長期的な影響などによって今後も変化するだろう。

プラチナの需要と供給 – 2020 年の最新情報

最新の 2020 年のプラチナ市場予測は、前回の 7.7 トンの余剰予測から一転して、年間で 10.4 トンの不足になると見られる。2020 年のプラチナ総供給量は 14%(36 トン)減の 220.9 トンとなる予測で、精錬生産量は 15% (28.3 トン) 減少、リサイクル供給は 12% (7.8 トン)減少。

2020 年のプラチナ総需要量は 231.3 トンで、全分野にわたる需要の低下を受け、前年比マイナス 11% (29.5 トン減) となるだろう。自動車需要は 14.4 トン減、宝飾品需要は 8.9 トン減、工業需要は 0.2 トン減、投資需要は 6 トン減の予測。今年度の投資総需要は 33 トンで、前年比マイナス 15% だが、前回の予測よりは 14.2 トンの増加となった。グローバルリスクが高まる中で現物資産を求める投資家が増え、インゴットやコインの需要は 113% 増の 18.7 トンとなるだろう。

2020 年第 2 四半期は 5.9 トンの不足、総供給は前年比マイナス 35%、総需要 マイナス 19%

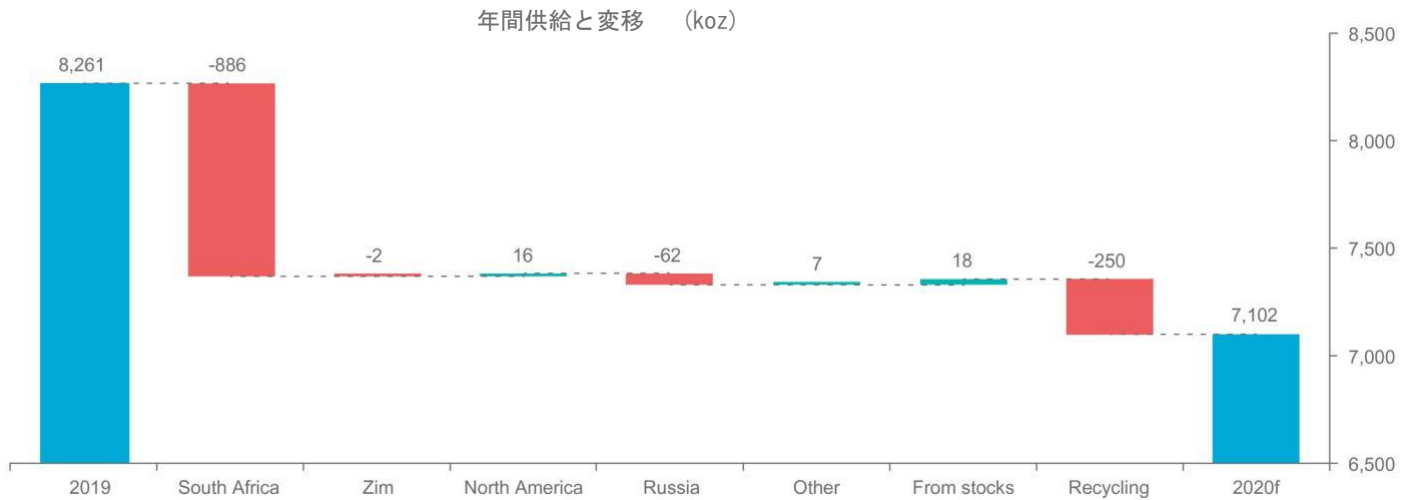
第 2 四半期の供給は前年比 35% (23.2 トン) 減で 43.8 トン。アングロ・アメリカン・プラチナム精錬所(ACP)の転炉事故の後遺症と南アフリカの新型コロナウイルス感染症拡大阻止のための鉱山閉鎖の影響が第 2 四半期に直に現れた形となった。事実、南アフリカの鉱山は 3 月 26 日から 4 月 30 日まで完全に閉鎖され、6 月 1 日以降に再開されたばかりだ。第 1 四半期同様に、2019 年中に備蓄された仕掛かり在庫から放出された精製プラチナ (1.1 トン) が生産の減少分をいくらか補う形となった。一方、今期のリサイクルプラチナは感染症拡大で物流がさらに滞ったために大幅にダウンして 19%(3.1 トン) の減少となった。精錬プラチナの生産同様、昨年度中にリサイクルされずに未処理で残っていたプラチナからも供給されたが、量は少なく、それほどの相殺とはならなかった。

第 2 四半期中の需要は前年比 19% (12 トン)減り、49.7 トンとなったが、第 1 四半期と比べるとわずか 2% (1.1 トン)のダウン。自動車分野のプラチナ需要は前年比 48% マイナス(11.2 トン減) で、中国以外の全ての主要マーケットでは新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う工場閉鎖が生産ラインに影響を与えた。感染症拡大阻止のための工場閉鎖は宝飾品需要にも影響を与え、27%の減少。工業分野はガラス以外全てで需要減となった。しかし、グローバルリスクの高まりと各国が協調して感染症拡大の打撃を和らげる財政・経済政策を打ち出したため、プラチナを含む全てのアセットクラスは 3 月の暴落以降回復している。プラチナ ETF は第 2 四半期末には 3.8 トンの買い越しとなり、大幅な売り越しとなった第 1 四半期とは対照的な結果となった。インゴットとコインの需要増は第 2 四半期も堅調で 4.1 トンの増加となった。感染症拡大でロジスティックスの滞りを危惧して増加した NYMEX 指定倉庫のプラチナ在庫は第 2 四半期末までにほぼ 2 倍となった。

新型コロナウイルス感染症の拡大の影響もあって第 2 四半期は供給がさらに減少に転じた一方で、強気の投資需要のおかげで今期は 4.1 トンの不足となった。

2020年の供給 – 精錬所事故と感染症の影響で鉱山とリサイクル供給は減少

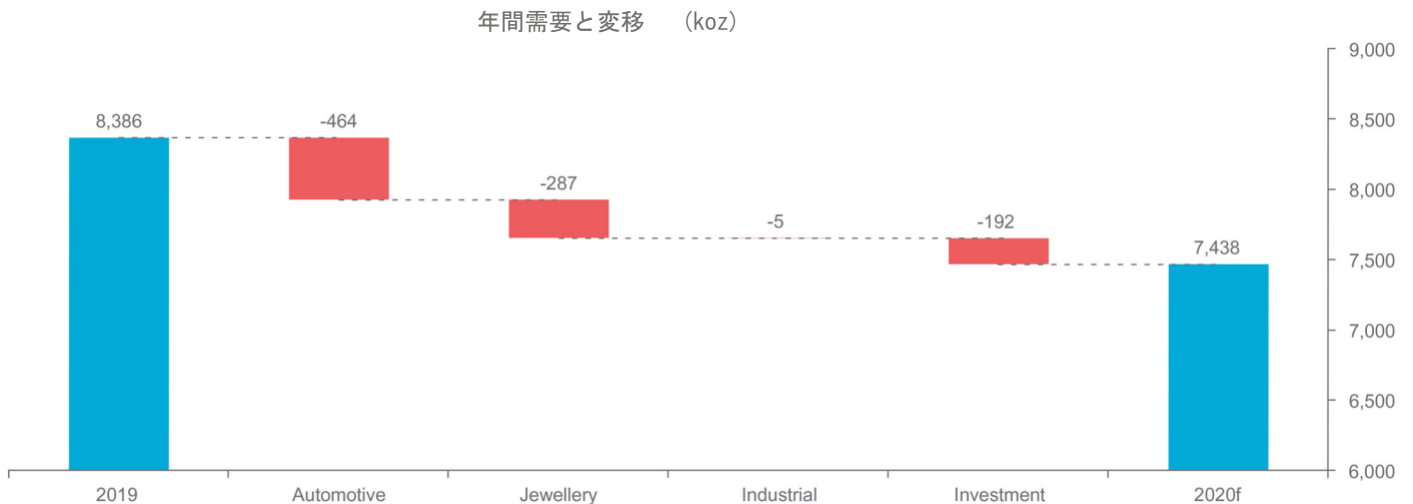
2020年の鉱山の精錬プラチナ生産は前年比マイナス15%(28.8トン減)で160.7トンとなる予測。このうち95%(27.6トン)は南アフリカの減産からで、うち約17.1トンの減少の原因は度々取り上げられたACPの80日間にわたる閉鎖と、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のための鉱山閉鎖による。感染症拡大が今後の鉱山運営、特に労働集約型の地下採掘に与える影響は未だ不明。リサイクル供給が12%(7.8トン)減ったのは、主に感染症拡大の影響で今年上半期に物流が滞ってリサイクル収集と廃車からの浄化触媒装置の回収が減り、さらに中国で宝飾品リサイクルが減ったことによる。



2020年の需要 – 新型コロナウイルス感染症拡大の打撃は続くも、多少緩和が見られる

第1四半期末の中国のロックダウンは、欧米よりもかなり早く解除されたため、中国の自動車プラチナ需要の素早い回復につながった。さらに普通乗用車対象の国6排ガス基準、大型車両対象の国VI排ガス基準の導入にも助けられて、前年比27%増加するだろう。しかし、中国以外では世界の自動車生産の減少は予想以上に悪化している。欧州の主要市場では自動車産業の景気刺激策が導入され、新車販売台数は底を打った4月から大幅に回復しているにもかかわらず、自動車分野のプラチナ需要は世界で前年比マイナス16%の75.6トンとなる予測。

中国の宝飾品需要も、第2四半期は第1四半期に比べて大きく回復したが、今年後半の需要は前年と同レベルの予測。北米、欧州市場も回復したが、今後もその基調が続くかどうかは予断を許さない。



第 2 四半期に好調を期した ETF 需要はこのまま年内も続くと思われ、同時にインゴットとコインの需要も前年よりも増加するだろう。プラチナ市場のファンダメンタルズは良好で、品不足の予測、需要の潜在的成長、ゴールドとパラジウムに比べた割安感など、投資家にとって魅力的な材料が揃っている。工業需要は感染症拡大の打撃が一番少ない分野となり、ガラス産業の需要拡大、新型コロナウイルス感染症治療に関連した医療機器に使われるプラチナ需要などが焦点。

プラチナ投資 – 投資需要の増大でプラチナの過小評価に注目集まる

新型コロナウイルス感染症の世界的な流行がプラチナの需給に与える影響については、今年の第 1 四半期以来、様々な情報収集と分析がなされ理解が進んできた。世界中で貴金属への投資需要が増え、プラチナのファンダメンタルズが予想以上に良好なことでプラチナ投資に関心が集まっている。プラチナ投資をさらに後押しする要因には、ゴールドに比べて安価なこと、供給が今後縮小する見通しなこと、2020 年の予測が予期せずに 15.6 トン以上の幅で余剰から不足に変化したことなどで、今後の投資需要増が期待される。さらにその背景には、プラチナ投資需要の急増でパラジウムとの代替が進んでいること、また感染症拡大対策のために各国政府の財政が圧迫されている中で地球温暖化問題を効率的に解決する必要が高まっていることがある。

供給の制限 – 精錬所事故、新型コロナによる閉鎖、鉱山生産量の減少で悪化

感染症の拡大防止策で鉱山が閉鎖されたためプラチナ生産量は 5 月の予測よりもさらに約 11.2 トンの減少で マイナス 42%となる予測。ACP の転炉事故による減産は約 15.6 トンから 17.1 トンとなるとみられる。パラジウムとロジウムの高値が続いたことと、プラチナ価格が上昇したことで生産者マージンは増えたが、生産者側として供給能力増大のために投資するにはプラチナ不足が継続する必要があるため、不足解消に鉱山生産能力を向上させる努力には 3 年はかかるだろう。感染症関連の鉱山閉鎖と感染症予防のための採掘現場での安全対策が生産量に与える短期的な影響は不明だが、ネガティブなものになるだろう。

需要の潜在的成長 – 新型コロナウイルス感染症、気候変動、パラジウム代替、投資が牽引

感染症拡大阻止のために経済活動が自粛されていた期間に世界中で大気汚染が改善した事実は、大気汚染と地球温暖化の問題に取り組む重要性を改めて認識させることとなった。しかし、感染症拡大による経済への打撃でその対策に必要な資金集めはさらに困難なものとなる可能性がある。

この世界的危機の中で注目すべき動きの一つは「水素経済」の成長だ。水素を主要な電力と交通の動力源とすることこそがより良い地球環境のためには、経済的に最も効率的で持続可能な方法であることを、各国政府が具体的な戦略、政策、イニシアティブを通じて認識し始めている。

プラチナはクリーンな水素生産においてだけでなく、燃料電池自動車 (FCEVs) の燃料電池においても水素経済を促進する重要な役割を担っている。現在、燃料電池自動車の成長は大型トラックや列車が牽引し、燃料電池普通乗用車の開発は長期スタンスで行われているが、水素経済と燃料電池自動車市場の成長はプラチナ需要にとっては大きなプラスとなり、長期的にプラチナの価値を高める基盤となるだろう。

感染症拡大がきっかけとなった動きの中でさらにプラチナにとって有利なものとしては、内燃機関自動車 (ICE) から、バッテリー・燃料電池などの電気自動車への移行の促進だ。公的資金の制限で燃料電池自動車の普及のための充電ステーションなどのインフラ整備が遅れる中、厳格化する排ガス規制でガソリン車の排ガスは費用をなるべくかけずにして無害でなければいけなくなっている。幸にして欧州の自動車メーカーはここ数年、新車の排ガスから二酸化炭素を減らすよう取り組んできた。その中には触媒装置により多くのプラチナを使う様々なタイプのディーゼル車、ディーゼルハイブリッド車の促進があり、2020 年はこれがプラチナ需要を押し上げるだろう。

パラジウムは 3 月半ばに急落したにもかかわらず、今だ 1000/oz 米ドルとプラチナよりもかなり高価格で、それがガソリン車、ディーゼル車の浄化触媒装置でパラジウムの代わりにプラチナを代替する誘因となっている。前回パラジウムとプラチナの価格が乖離した時にはプラチナがパラジウムの代替となったことで価格の均衡を取り戻した経緯がある。

当然、自動車メーカー、浄化触媒製造各社は、現在プラチナがどの程度パラジウムの代替となっているかについて、それが企業秘密でありまた公にすることでプラチナ価格の高騰を招きかねないために公表していない。しかし我々は限られた情報から推測できるよりも、実際にプラチナが使われている量は多いと考えており、この傾向は感染症拡大中も、その後も続くと思われる。

感染症拡大の中、グローバルリスクが増大して多くの投資家はリスクヘッジとしてのゴールドに向かい、今年度だけでゴールドETFの保有量は20%増の500億ドルに達している。ゴールド価格は28%上昇し、8月6日には過去最高値の2,067となって他のアセットクラスを凌いだ。が、実はあまり注目されていないのは3月19日にプラチナが599/ozドル、ゴールドが1472/ozドルと暴落して以来、プラチナはゴールドを遥かに超えるパフォーマンスを見せていることだ。8月末までにプラチナは55%上昇した一方、ゴールドの上昇率は33%。低迷していたプラチナの先行きが初めて上向きになってきたことは見逃すべきではない。

プラチナのパフォーマンスがゴールドを上回るのは例外的なことではなく、2008年後半の世界金融危機(GFC)で底値を打ってからの2年間、プラチナの週間リターンはゴールドのそれを30%から65%も上回っていた。この期間、プラチナのパフォーマンスは投資需要の成長に頼っていたわけではなく、自動車需要が弱い反面プラチナ宝飾品の需要は非常に強く、また供給増の見込みが制限されたために投資家センチメントは良好を保っていた。前述した通り、2020年のプラチナ市場のファンダメンタルズは回復しており、上海黄金交易所では活発にプラチナが買われ、中国は大量にプラチナを輸入している。長年ゴールド価格と強い相関関係を保っていたプラチナ価格は、感染症拡大以来、0.7以上に回復し、結果、その数字だけでもゴールド投資家の多くはプラチナをゴールドに非常に近いものとして、そしてゴールド以上のパフォーマンスを期待できる投資先として見るだろう。

WPIC 戦略ハイライト

感染症の拡大は第2四半期も引き続き我々の提携パートナー各社に影響を与えている。造幣局や精錬所は再開されたが感染症対策で運営規模を縮小。急増する投資家の貴金属需要に応じるために欧米では再開した操業の焦点をゴールド商品に当てる結果となっている。そのためプラチナインゴットとコインの供給は、全国的なロックダウン中の供給経路の制限が緩和されて国際航空便も再開されたが、依然制限されたままだ。

感染症拡大による影響は、地域あるいは投資商品によって様々な形で商品開発の計画を遅らせるだろう。

我々の焦点は引き続き中国と北米においてプラチナ投資商品における提携パートナー社を増やし影響力を高めていくことにある。

中国では感染症拡大の影響で新たな提携パートナー開拓が遅れたが、我々の上海オフィスは提携パートナー各社とともにオンラインでビデオを通じてセミナーやトレーニングを数多く実施し、増え続けるオンライン投資家のニーズに応えることで、投資資産としてのプラチナの認知度と購入を促してきた。

世界中で高まった貴金属投資熱で中国でもプラチナ投資が盛んになり、提携パートナー各社では現金決済投資口座を通じて大幅な増加となっている。感染予防のためのソーシャルディスタンスを保ちながらも提携パートナーとの活動やネットワーキングが以前のレベルに戻りつつあり、我々は今年度の進捗に満足している。

プラチナインゴットとコインで最も成熟した市場である日本は、第2四半期も引き続いて需要が高く、我々はプラチナに関する情報をさらに広め購入を促す活動をした。日本貴金属マーケット協会(JBMA)と提携してオンラインセミナーやソーシャルメディアでプラチナの知識を既存の投資家、そして新規の投資家にも広めることができた。以前からゴールドとの価格差があり有利な円建てプラチナ価格もまた多くの投資家の購入を促した。

欧州と北米では、引き続き提携パートナー各社とともにプラチナに焦点を当て、感染症拡大の打撃を和らげて投資家需要に応えられるようサポートを行った。第2四半期もインゴットとコインに対する関心は高かったが、商品が手に入らないために第1四半期よりは大幅に減少。生産者側がゴールド商品に力を入れたためにプラチナインゴットは4月末時点で売り切れとなった。需要に応えるため米国造幣局が2万6500枚の2020アメリカンイーグル・プラチナ1オンスコインを追加生産したが、それも、そして5月、6月に出回った少数のプラチナインゴットも今期末までにすべて売り切れとなった。プラチナインゴットとコインは再び7月、8月には流通し始めており年内は引き続き好調な販売が続くと見られる。

WPICは提携パートナー各社とともに世界の投資家に向けて価値あるプラチナ投資商品を増やし、投資資産としての認知度を高めるために働きかけを続けている。それにはパートナー各社の顧客や既存の提携関係が重要な役割を果たすが、我々はパートナー各社を通じてWPICの研究資料や情報をさらに広め、プラチナ投資を考えている投資家のニーズに応えていきたいと考えている。

2020年、そしてその後もプラチナの認知度を高め投資商品の普及に役立つよう、多くの新しいパートナーとの提携を予定している。

感染症拡大による深刻な被害が明らかになってきているが、プラチナは気候変動の影響を軽減できる貴金属として、またパラジウムとの市場不均衡の解決策として、さらに魅力的な現物投資、工業用金属、貴金属としてのプラチナの潜在的な需要は感染拡大中も拡大後も続くだろう。

CEO ポール・ウィルソン

目次

| | | | |
|----------------|-----|--------|-----|
| 前置き | P1 | 詳細データ表 | P19 |
| 要約データ表 | P6 | 免責事項 | P24 |
| 2020年第2四半期レビュー | P7 | | |
| 2020年予測 | P13 | | |

表1：供給、需要、地上在庫のまとめ

| | 2017 | 2018 | 2019 | 2020f | 2020f/2019 Growth % | Q1 2020 | Q2 2020 |
|--|--------------|--------------|----------------|--------------|------------------------|--------------|--------------|
| Platinum Supply-demand Balance (koz) | | | | | | | |
| SUPPLY | | | | | | | |
| Refined Production | 6,125 | 6,125 | 6,094 | 5,167 | -15% | 1,243 | 954 |
| South Africa | 4,380 | 4,470 | 4,402 | 3,517 | -20% | 832 | 532 |
| Zimbabwe | 480 | 465 | 455 | 453 | -1% | 118 | 114 |
| North America | 360 | 345 | 356 | 372 | 4% | 98 | 87 |
| Russia | 720 | 665 | 716 | 654 | -9% | 150 | 177 |
| Other | 185 | 180 | 164 | 171 | 4% | 45 | 44 |
| Increase (-)/Decrease (+) in Producer Inventory | +30 | +10 | +2 | +20 | >±300% | +41 | +36 |
| Total Mining Supply | 6,155 | 6,135 | 6,097 | 5,187 | -15% | 1,284 | 989 |
| Recycling | 1,895 | 1,935 | 2,165 | 1,915 | -12% | 489 | 419 |
| Autocatalyst | 1,325 | 1,420 | 1,630 | 1,471 | -10% | 406 | 309 |
| Jewellery | 560 | 505 | 477 | 388 | -19% | 70 | 97 |
| Industrial | 10 | 10 | 58 | 57 | -3% | 14 | 13 |
| Total Supply | 8,050 | 8,070 | 8,261 | 7,102 | -14% | 1,773 | 1,408 |
| DEMAND | | | | | | | |
| Automotive | 3,320 | 3,090 | 2,894 | 2,429 | -16% | 663 | 386 |
| Autocatalyst | 3,180 | 2,945 | 2,894 | 2,429 | -16% | 663 | 386 |
| Non-road | 140 | 145 | † | † | † | † | † |
| Jewellery | 2,460 | 2,245 | 2,100 | 1,813 | -14% | 394 | 392 |
| Industrial | 1,685 | 1,920 | 2,140 | 2,136 | 0% | 499 | 428 |
| Chemical | 565 | 570 | 692 | 593 | -14% | 157 | 119 |
| Petroleum | 100 | 235 | 219 | 122 | -44% | 38 | 29 |
| Electrical | 210 | 205 | 145 | 136 | -6% | 32 | 34 |
| Glass | 180 | 245 | 259 | 540 | 108% | 98 | 82 |
| Medical and Biomedical | 235 | 240 | 249 | 249 | 0% | 59 | 64 |
| Other | 395 | 425 | 577 | 495 | -14% | 115 | 101 |
| Investment | 275 | 15 | 1,252 | 1,060 | -15% | 79 | 393 |
| Change in Bars, Coins | 215 | 280 | 281 | 600 | 113% | 312 | 133 |
| Change in ETF Holdings | 105 | -245 | 991 | 160 | -84% | -213 | 122 |
| Change in Stocks Held by Exchanges | -45 | -20 | -20 | 300 | N/A | -20 | 138 |
| Total Demand | 7,740 | 7,270 | 8,386 | 7,438 | -11% | 1,635 | 1,599 |
| Balance | 310 | 800 | -125 | -336 | N/A | 138 | -191 |
| Above Ground Stocks | 2,380 | 3,180 | 3,525** | 3,189 | -10% | | |

提供：メタルズフォーカス社（2019年から2020年）、SFA（オックスフォード）社（2017年から2018年）

注：

1. 地上在庫：***113.5トン 2018年12月31日現在（メタルズフォーカス社）
2. †道路を通行する車両以外の自動車需要は浄化触媒装置需要に含まれる。
3. 予測は全て最新データに基づくが、新たな四半期レポートのデータに応じて修正されることがある。
4. WPIICは2013年、および2014年第1四半期および同年第2四半期の予測は発表していない。しかし2014年第3四半期から2017年第4四半期のデータは過去のプラチナ四半期レポートに掲載されており、それらについてはWPIICウェブサイトを参照（無料）。2018年第2四半期の四半期予測と2018年上半期の予測データは21ページと22ページの表3と表4にそれぞれ含まれている（供給、需要と地上在庫）。24ページの表6（リサイクル供給データ）は2019年以降からの提供
5. メタルズフォーカス社、SFA（オックスフォード）社のデータは必ずしも同じ比較対象ベースを使っているわけではない。
6. 2019年以前のSFA（オックスフォード）社のデータはそれぞれ単独で5koz単位で四捨五入。

2020年第2四半期マーケットレビュー

2020年第2四半期も新型コロナウイルス感染症の拡大はプラチナ市場に甚大な影響を及ぼしている。供給、需給ともに感染症予防のための行動制限、及びそれに伴う世界経済の減速が大きく響いている。同時にまた感染症拡大に対する各国の金融、財政政策がプラチナを含む貴金属投資を呼び込むことに一役買っている。

今期のプラチナ総供給量は前年比マイナス40% (20.2トン減)で、主に南アフリカの減産による。今期の世界のリサイクル供給は感染症の影響を受けて前年同期比19%のマイナス(3.1トン減)となった。今期のプラチナ総需要量はマイナス19% (12トン減)で、内訳は自動車需要が48% (11.2トン)減、工業需要は25% (4.5トン)減、そして宝飾品需要は27% (4.6トン)減であった。今期中の需要縮小は多くの製造工場にダメージを与えた。ロックダウン中の工場の閉鎖、その後は感染予防のソーシャルディスタンスを保ちながらの操業再開、供給経路の分断、その上地域によっては再びロックダウンを余儀なくされた工場もあった。対照的に投資需要は前年比212% (8.3トン)の拡大。最も大きな変化はマイナスだった取引所保有量在庫で4.9トン増加して、4.3トンとなったことで、ETF保有量も2.2トン増えて3.8トンとなり、インゴットとコイン需要も1.4トンから4.1トンに増加した。

しかし投資需要の拡大は他分野の需要減を十分には相殺できず、今期全体の需要は供給よりも激減する結果となり、プラチナ市場は5.9トンの不足となった。

チャート1：2020年第2四半期の需要供給バランス (koz)



提供：メタルズフォーカス社

供給

世界の精錬プラチナ生産量はマイナス43% (22.1トン減)で29.7トンとなり、減産の大部分は南アフリカで感染症拡大措置のための制限とACPの事故によるものだった。

南アフリカは感染症拡大阻止のための最も厳しい制限が4月に敷かれ、露天掘りは条件付き操業を続行できたが、鉱山生産の75%を占める地下鉱山は完全に閉鎖された。5月1日より部分的に制限が解除されて地下鉱山は50%の能力のまま、操業と加工プロセスは元の稼働率に戻ることが許可された。6月1日に制限はさらに緩和され、感染症予防の措置を実施すればフル稼働が許可された。

南アフリカではこのような段階的緩和措置が取られたため、鉱山や鉱床によって年間生産量の差が大きくなった。プラチナ鉱山の地下鉱山採掘は感染症拡大阻止措置とACP事故に影響を受けなかったが、マイナス36%から78%の範囲で平均マイナス57%の減産となった。今期の露天掘りの鉱石採掘はマイナス11%にとどまり、今年下半期もそれほど減産しないと見られる。地下鉱山の採掘は2箇所がまだ半分の稼働率だが、ほとんどの鉱山は第2四半期末までにフル稼働し今後も生産量が増える見込み。

新型コロナウイルス感染症とは別に、南アフリカの第2四半期の精錬プラチナ生産が前年と比べて大きく減少した原因はACPの転炉事故である。フェーズA工場の爆発とフェーズB工場の水漏れのためACP全体が3月6日に閉鎖され、その修理中に別の水漏れが発見されてフェーズB工場が再度一時的に閉鎖された。第2四半期合計で54日間にわたってACPの生産量はゼロとなり、それは精錬プラチナ国内生産約21.3トンのうちの9.6トン分となった。鉱山採掘が通常通り行われていれば、このような中断は製錬マットの仕掛かり在庫を増加させるが、感染症拡大阻止のための閉山で採掘量が減少していたため、増加分は予想以下となった。

ジンバブエでは3月30日の夜中から実施された全国的なロックダウン中もプラチナ鉱山は操業を続け、中には中断した鉱山もあったが、第2四半期末までには全てのプラチナ生産はフル稼働に戻った。減産を補うために仕掛かり在庫から放出したところもあったため、全国生産はマイナス5% (0.2トン減)の3.5トンとなり、精錬生産の減少ほどにはならなかった。

ロシアの生産量は第1四半期から続いて前年比6% (0.4トン)のマイナスで5.5トンとなった。ロシアの生産量のほとんどを占めるノリニッケルの生産量は、クラスノヤルスク貴金属プラントの在庫からの精錬が減ったために減産となった。

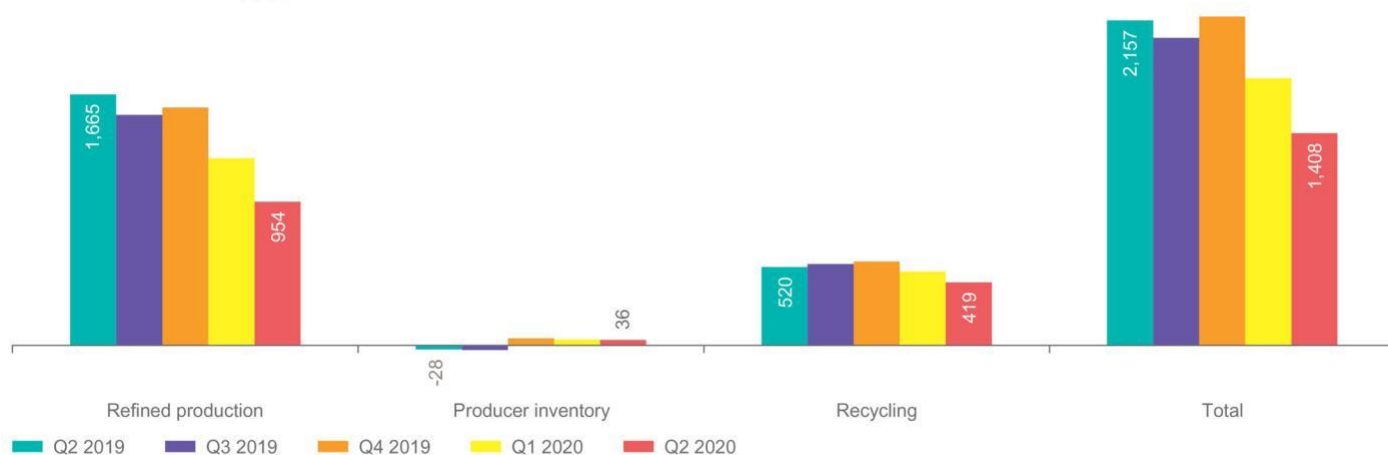
その他の国の生産はフィンランドの鉱山拡張のおかげで11% (0.1トン)増えて1.4トンとなった。

リサイクル

今期の浄化触媒装置からのプラチナリサイクルは前年比マイナス20% (2.4トン減)で9.6トンとなった。これは主に欧米でロックダウン期間中に廃車からの触媒装置の回収と流通が滞ったためである。製錬所や精錬所で感染症拡大以前に処理しきれずに溜まっていたものが処理され、この減量分をいくらか相殺する形となった。さらにパラジウムとロジウムの高値でスクラップヤードから在庫が放出されたが、それもロックダウンによる影響で供給量増量とはならなかった。

宝飾品リサイクルはプラチナ価格が底値を脱し感染症関連の制限が緩和されたため、今期は中国では第1四半期に比べ倍増したが、中国の小売業者の在庫がリサイクルされなかったために全体としては依然として前年比18% (0.7トン)の減少。

チャート2：プラチナ供給 (koz)

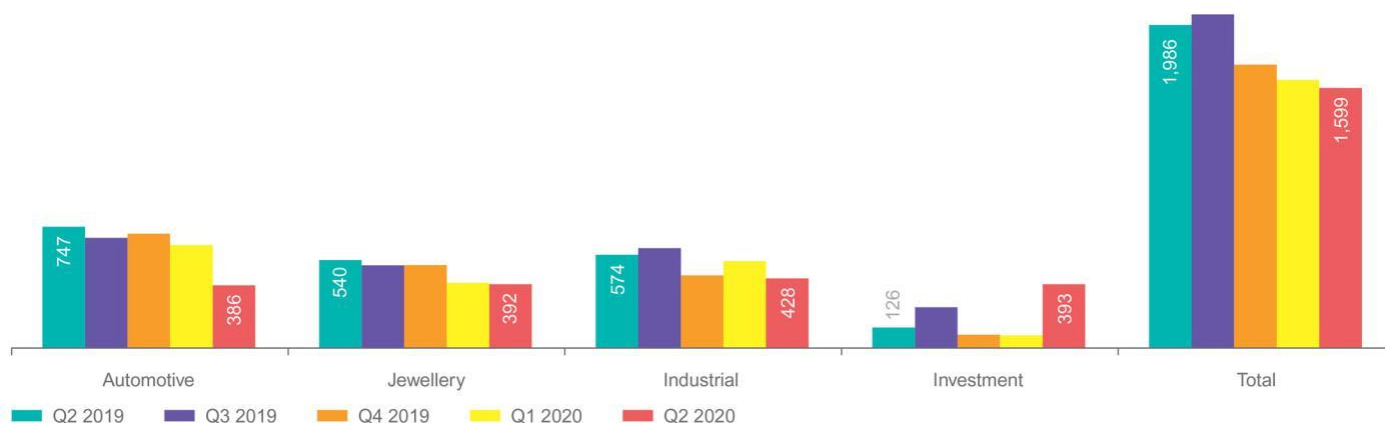


提供：メタルズフォーカス社

需要

今期の需要は前年同期と比べ12トン(マイナス19%)少ないが、プラチナ投資が注目を浴びる中、減少率は緩やかになってきている。

チャート3：プラチナ需要 (koz)



提供：メタルズフォーカス社

自動車需要

自動車産業は第2四半期終わりまでに60%から95%の生産能力を回復し、過去最悪の時期を脱しつつあるが、第2四半期のプラチナ需要は48%(11.2トン)減少し、12トンになった。回復が顕著なのは中国で、工場の平均閉鎖期間は以前と同じく16日間となっている。一方、南米は感染症対策に問題があり今期末までの工場の平均閉鎖期間が85日となっている。欧州、北米、他のASEAN市場での工場閉鎖は4週間から6週間となっているが、今期末までに稼働率90%以上を達成している。

今期中に発表された欧州各国の景気刺激策のおかげでマイルドハイブリッド車販売は上向いたが、欧州のプラチナ需要は感染症拡大により甚大な影響を受け、マイナス60%(7.1トン減)となった。ディーゼル車のシェアは昨年上半期の33%から今年上半期は30%に減少した。北米の自動車生産は3分の2以上の減産で、今期のプラチナ需要は前年比マイナス60%(1.7トン減)となった。

これと対照的なのが中国で、自動車生産が増大しただけでなく、普通乗用車が対象の国6排ガス規制の導入が遅れ、大型車が対象の国VI排ガス規制が7月まで柔軟に適用されている状況にもかかわらず、プラチナ需要は順調に伸びている。これは国内主要都市で前述の排ガス規制に対して率先して早期に適応しているためと見られる。国VI排ガス規制はEuro VI排ガス規制同様、国V規制に比べて基準が非常に厳しくなっており、窒素酸化物の限度は77%、PM限度は67%厳格になっている。第2四半期期間中に生産された大型車両(総重量6トン以上)の少なくとも25%は国VI排ガス規制に適応した排ガス制御装置を搭載している。これを受けて今期の中国のプラチナ需要は62%(1トン)増加し、他の市場の減少を幾分か補うこととなった。

宝飾品需要

宝飾品需要は、中国の需要が前期に比べて堅調に回復したにもかかわらず、世界の他の地域がまだまだ感染症拡大の影響を受けているため、今期は前年比マイナス27%(4.6トン減)となった。

中国経済が鈍化する中、消費者がゴールド宝飾品よりも割安なプラチナ宝飾品に目をつけたことで、中国のプラチナ宝飾品製造は前年同期比1%(60キロ)の微増。多くの展示会や小売店でプラチナ宝飾品が再び販売され始めたり、斬新な商品を発表されたり、マーケティングを活発に行われりして5月の小売販売は好調だったにもかかわらず、予測よりは伸び悩み、6月の仕入れは低調となった。そのため第2四半期も引き続き二桁台の減少で、消費者の軽量宝飾品への変調が販売商品数の増加を飲み込んだ形だ。

北米の第 2 四半期のスタートはロックダウンで製造が止まり、ほとんどの小売店が長期間に渡って閉店、結婚式は中止か延期と非常に厳しいものとなった。小売店の多くは在庫を減らしたため販売よりも製造側にしわ寄せが行った。6 月にはロックダウンも緩和されプラチナ宝飾品の輸入が前月の 5 倍になるなど回復が始まったが、今期全体では宝飾品需要は減少して前年比マイナス 48% (1.4 トン減) となった。

欧州の需要は主に感染症予防の工場閉鎖のために前年の半分以下(1 トン)となった。5 月に制限が緩和されると販売は回復し、高級宝飾品・時計のブランドは 6 月までに通常レベルに戻った。しかしブライダル需要の回復は弱く、6 月のイギリスの宝飾品製造は前年比マイナス 52% (5 月はマイナス 74%) となった。米国に比べ欧州の需要が急激に減少したのは、感染症拡大初期に主にイタリアの工場が閉鎖を余儀なくされたからで、また高級ブランド品製造も主要市場である中国の小売制限で打撃を受けた。

インドでは 3 月 25 日から実施されたロックダウンの影響で今期のプラチナ宝飾品需要はわずか 90 キロに激減。インド経済全体がロックダウンの打撃を受けた中で地方は比較的影響が少なかったにもかかわらず、多くの消費者が高額商品の購入を極端に控えた。宝飾品製造業もロックダウンのため売れずに在庫を抱える小売からの需要がないため、影響を受けた。

工業需要

今期の需要は前年比マイナス 25% (4.5 トン減) で 13.3 トン。ガラス産業以外は全て、工場閉鎖や生産制限、供給経路の中断や消費者需要の減少といった感染症拡大の影響を受けた。

石油

第 1 四半期の大幅な減少に続き石油産業のプラチナ需要は第 2 四半期も低迷し 0.8 トン減って、前年のほぼ半分の 0.9 トンとなった。コロナ禍で前例のない需要激減を経験した石油産業の前途は厳しく、ベンチマークとなる原油価格の崩壊で OPEC と同盟国は 4 月終わりに大幅な供給減に合意した。原油在庫が急減したために世界の石油精製業界はさらに大きな打撃を受け、今期は中国以外の国々では精製所稼働率の低下や閉鎖が見られた。中国では安い原油輸入価格を利用して石油生産が急増したが、ここ数年、石油精製所と合体しつつあった石油化学産業の増産ペースが低下し、プラチナ需要は伸びなかった。

化学

化学産業のプラチナ需要は前年比マイナス 41% (2.6 トン減) で、主に要因は中国の石油化学分野の減少。しかし 2019 年は四半期毎に新たな巨大石油化学コンビナートが稼働を開始したという例外的な年であったことを忘れてはならない。中国の新しい工場建設は続いているが、昨年の成長率には及ばない。中国以外の国では消費の減少、感染症拡大阻止のための制限、さらに近年の中国の工場建設ラッシュで生産能力がだぶついており、操業の縮小や整備調整への変更が行われた。

シリコン製造におけるプラチナ触媒の需要も今期は縮小したが、セクターによって差が出た。医療、健康、衛生、ホームケアセクターの需要は堅調だったが、自動車、建設セクターなどの減少で相殺された。今期は感染症が発展途上国に拡大して肥料生産が落ち込んだため、硝酸の生産に使われるプラチナの需要も減少した。感染症の拡大は供給経路の切断と農産物消費の減少の両方の原因となった。

医療

社会基盤を支えるサービスである医療と医薬品産業は感染症にあまり影響を受けず、今期のプラチナ需要は 5% (90 キロ) の減少にとどまった。米国ではロックダウン期間中、植め込み型除細動器(ICD)を含む選択性治療の大きな落ち込みと腫瘍治療の減少が見られたが、

その他の国では腫瘍治療のための医薬品や癌治療に使われるシスプラチン、オキサリプラチン、カルボプラチンなどの抗癌剤に含まれるプラチナベースの医薬品有効成分 (APIs) の需要は順調だった。中国では医療制度が飛躍的に向上し、インドでは健康保険の範囲が広げられるなどしたため、これらの国で医薬品有効成分の生産が大きく成長した。インドでは今年前半、医薬品に使われるプラチナの需要増が顕著で、中国の地方の製薬会社は医薬品有効成分の販売が 10%から 20%増加したと報告している。

ガラス

今期の液晶ディスプレイ用ガラス(LCD)基盤の需要は増減様々であった。テレビの液晶パネルの需要は減少した一方で、在宅勤務が増えたためにモニターやラップトップなどの IT 機器用の液晶パネルは増加。生産拡大の投資は実行されていない場合もあるが完全にほごになったプロジェクトはないとみられる。自動車、建設、石油、ガスの需要が減ったためにガラスファイバーの需要も減少し、唯一成長が見られたのは風力タービン製造だった。結果として今期のガラス需要は前年の 2.2 トンから 15% (0.3 トン)増加して 2.6 トンとなった。

電子材

電子材のプラチナ需要はハードディスクドライブ(HDD)の出荷低迷を受けて、前年比マイナス 5% (60 キロ減)となった。感染症拡大制限による生産中断に加えて、この分野の需要は経済的な不安で消費が低迷した主要市場の影響も受け、データセンターのニアラインディスクの伸びは監視システムと企業用ドライブの低迷に相殺された。今期はパソコン販売が回復したにもかかわらず、今やほとんどのノートブックパソコンとデスクトップに搭載されているソリッド・ステート・ドライブ (SSD)に押されて、ハードディスクドライブの需要は伸びていない。ハードディスクドライブはその費用面から大量データの保存には使われているが、次世代コンソールや航空宇宙産業など新しい分野が SSD を使う傾向があることが、この分野でのプラチナ需要の将来を左右していくだろう。

投資需要

第 1 四半期レポート以降も感染症の拡大は世界経済に前例のない規模で打撃を与え続けている。欧米の中央銀行は次々と具体的な対応策を打ち出し、結果、欧米市場の金利と債権利回りはさらに下がった。実質マイナス金利、株式市場の健全性への不安、さらに感染症拡大がおさまる気配がないことから、投資家はゴールド、シルバー、プラチナといった貴金属に向かっている。

インゴットとコイン、ETF を含めた今期の投資需要は前年比 212% (8.3 トン) の増加となった。経済が回復するか否かへの不安と供給のさらなる中断、その中で安全資産としてのゴールドの需要が増え、それがプラチナ投資の増加につながった。

今期のインゴットとコインの需要は前年比 49% (1.4 トン) の増加となったが、前期からはマイナス 58% となった。前期に比べて最も激減したのは米国で、その理由としては、第 1 に今期は圧倒的に商品、特に小型インゴットが不足したこと、第 2 に例年第 1 四半期の統計が増えるのは新しいコイン商品の発行によることが多く、米国造幣局もその例に漏れずに第 2 四半期にはほとんど新しいコインの販売がなかったことが挙げられる。

日本でも第 1 四半期と比べて、今期のインゴットとコインの需要が減少したのは、3 月の需要が過去にないほど大きかったことによる。実際のところ、今期の 2.4 トンという需要は過去の例を見ても申し分ない量であり、円建てゴールド価格と比較して割安なプラチナへの関心が高いことを証明している。

今期の欧州のインゴットとコインの需要は前期と比べても安定し、前年比 99% 増と過去にないレベルとなっている。プラチナとゴールドの価格差が広がるにつれて、プラチナが過小評価されているとみる新しい投資家が増えている。

ETF保有量は今期大幅に増加し3.8トンで、前期は6.6トンの売り越しだったのと対照的となった。北米と欧州の保有量増加が南アフリカのファンドの売却を相殺して余りあるものとなった。今期末のETF保有量は102.6トンで、3月2日に過去最高の買いとなった108.9トンの93%だが、その後、8月には新たな最高保有量を記録した。

6月後半にはNYMEX指定倉庫に大量のプラチナが流れ込み今期末までに2倍近くの10トンとなった。このうちの4.3トンは取引所保有在庫からだった。NYMEX指定倉庫への流れは7月、8月に入っても続き、8月18日には過去最高の13.6トンとなった。この背景となったのは先物とスポットの価格差とEFP取引で、EFP取引コストの大幅な上昇が翰取りの機会を作り出し、その結果現物がNYMEX指定倉庫へ流れた。先物をショートしてスポットあるいは現物のロングでヘッジしているマーケットメーカーが決済に取引所指定倉庫にデリバリー可能な現物を持ち込み、先の期限満期に対してヘッジした。当初は流通とインゴット製造生産の制限のためにEFP取引のコストは高く、金融機関でリスクリミットを絞った結果、NYMEXの先物が不足しマーケットメーカーが減ることになった。

チャート4：プラチナ投資



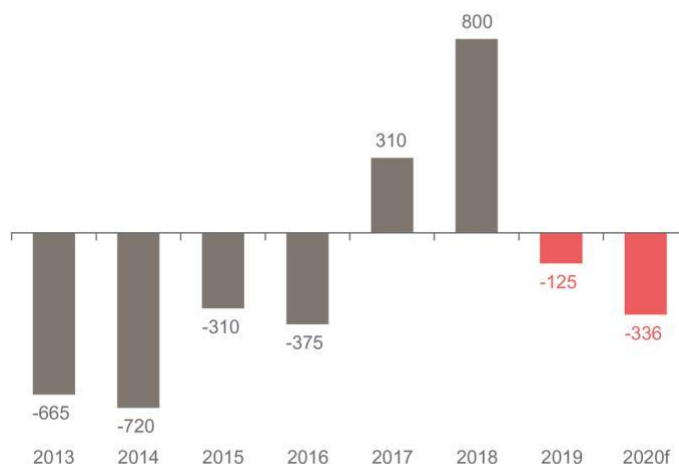
提供：メタルズフォーカス社

2020 年の予測

今年の半分が過ぎた今も、世界は終わりの見えない新型コロナウイルス感染症の脅威に晒されている。ロックダウンが解除された国や地域が増えているにもかかわらず、そして下半期は需要が上向くと期待されたにもかかわらず、感染症拡大がプラチナ需要に与えた影響は今年後半も続くだろう。今年の世界のプラチナ供給予測は 220.9 トンで前年に比べて 14% 下回り (36 トン減) 内訳は精錬プラチナが 161.3 トン、リサイクル供給が 59.6 トン。これに対して需要予測は前年比マイナス 11% (29.5 トン減) で 231.3 トン。自動車需要が 75.6 トン、宝飾品需要が 56.4 トン、工業需要は 66.4 トン、インゴットとコイン、ETF 保有量、取引所保有在庫を含む投資需要の予測は 33 トンとなっている。

プラチナ市場の品不足は 前年の 3.9 トンから今年は 10.4 トンに拡大するだろう。

チャート 5 : 2013 年から 2020 年第 2 四半期 需要供給バランス



提供 : メタルズフォーカス社 (2019 年から 2020 年)、SFA (オックスフォード) 社 (2013 年から 2018 年)

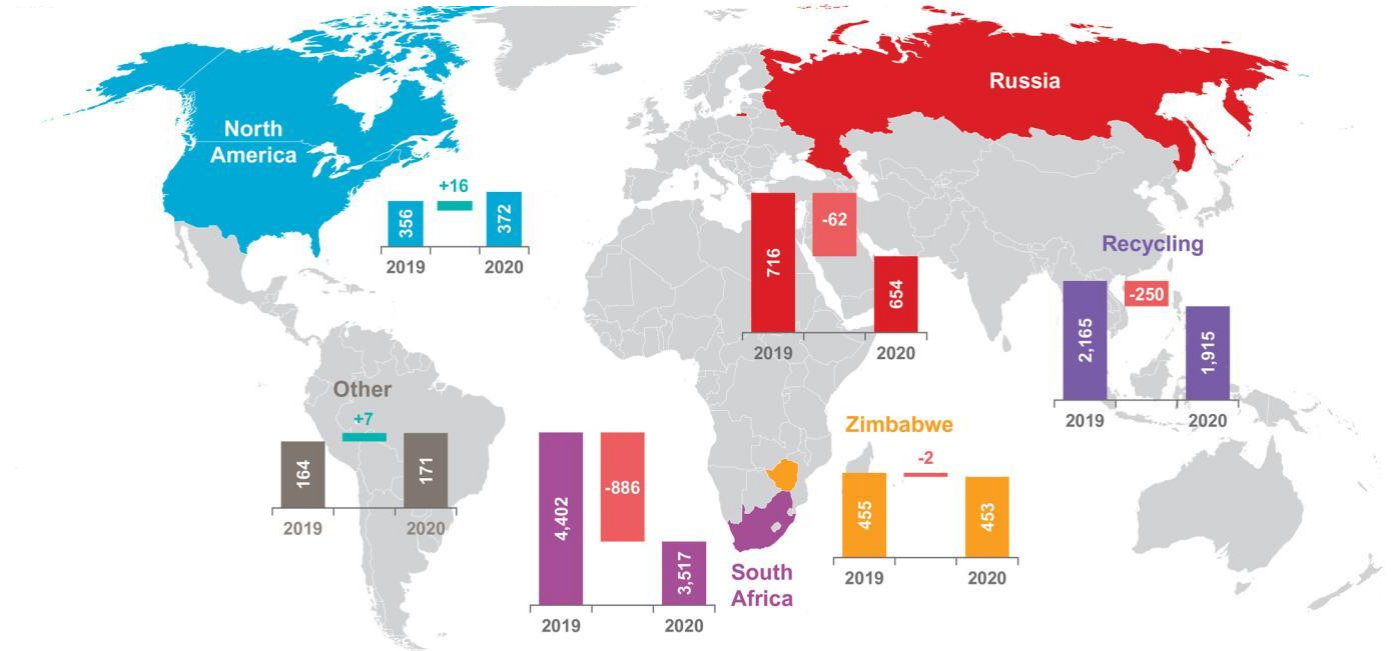
供給

2019 年に世界の精錬プラチナ生産の 72% を占めた南アフリカは、今年は 20% (27.6 トン) の減産となる見込み。主な原因は ACP の転炉事故で、予測された減産の大部分はすでに上半期に現実となった。鉱山生産は下半期には回復するとみられるが、国内二つの鉱山が上半期末の時点でまだ 50% しか操業していないなど、労働集約型の地下鉱山採掘の回復の遅れで前年より下回るの避けられない。8 月になってもプラチナ鉱山労働者の間で感染症のケースが増えており、再び感染拡大のリスクもある。採掘場での感染予防措置で再び全面的な閉鎖は免れるだろうが、ある程度の中断は起こるだろう。

精錬プラチナ生産の減産を補うために仕掛かり在庫が使われ、精錬生産は鉱山生産を上回るだろう。ACP 事故でアングロ・アメリカン・プラチナムは今年の精錬プラチナ生産量の予測を 17.1 トン減らしたことで、当初は同量が仕掛かり在庫の増量となりその精錬には 2 年かかるとみられていた。しかし、感染症拡大による鉱山閉鎖で在庫の増加分が少なくなり、2021 年末までには通常の在庫量になるとみられる。

ジンバブエでは感染症拡大による鉱山閉鎖による減産は、仕掛かり在庫からの精錬プラチナで相殺されるため、生産は実質増減なしとなるだろう。ロシアの生産は、製錬所のメンテナンス作業計画のためマイナス 9% (1.9 トン減) の予測となっている。

チャート6：2020年第2四半期と2019年の供給の変化 (koz)



リサイクル

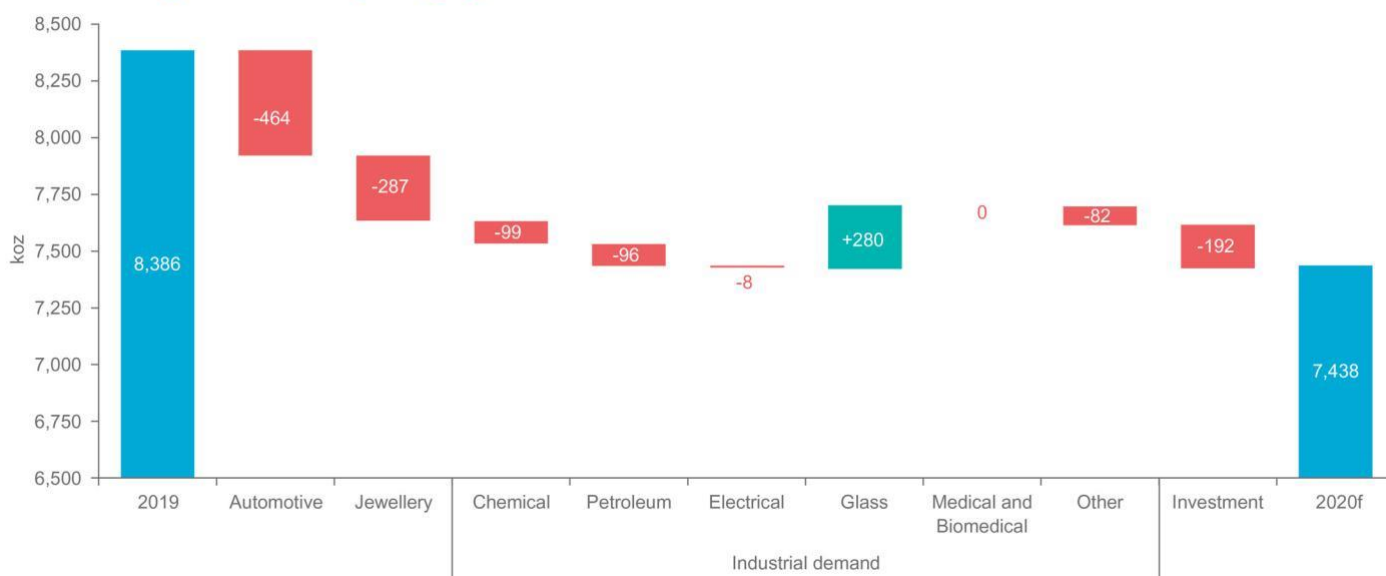
廃車の浄化触媒装置から回収されるリサイクルプラチナは、今年は10%(4.9トン)減少して45.8トンとなる予測。上半期同様、この減少の原因は感染症予防の行動制限からで、PGM 価格の上昇と製錬所や精錬所の在庫放出は相殺されるだろう。しかしそれにもかかわらずこの予測は過去2番目に多い量である。

宝飾品リサイクルは、今年前半の低迷のため、日本と中国のプラチナ価格が堅調で感染症関連の制限も少ないにもかかわらず、マイナス19%(2.8トン減)となるだろう。

需要

2020年のプラチナ需要は260.8トンから11%(29.5トン)減少して231.3トンとなる予測。この内訳は自動車需要がマイナス14%(14.4トン減)、宝飾品需要がマイナス14%(8.9トン減)、工業需要はほとんど変わらず(0.2トン減)、インゴットとコイン、ETF保有量、取引所保有在庫を含む投資需要は15%(6トン)の減少予測。

チャート7：2020年第2四半期と2019年の分野別需要の変化



提供：メタルズフォーカス社

自動車需要

第2四半期は中国以外の地域で自動車産業が予想以上に悪化し、欧州の自動車関連のコロナ禍支援策は対象が絞られたものだったことから、世界の普通乗用車生産は前年比16%、大型車は25%、道路通行以外の車両は16%下回るという新たな予測が発表された。

これを受けて自動車のプラチナ需要は16%(14.4トン)の縮小予測。西ヨーロッパのバッテリー電気自動車(BEVs)の優遇策はハイブリッド車にも恩恵が及び、ディーゼル車のシェアは、年内は30%前後となるとみられるが、欧州全体で普通乗用車生産が20%、大型車生産が30%以上の減産となり、プラチナ需要は21%(9.5トン)減少するだろう。北米のプラチナ需要はマイナス23%(2.4トン減)の予測。米国では大型車両やその他の機械に使われるディーゼルエンジンメーカーに対して、コロナ禍を考慮して大気浄化法に定めた基準を緩める旨が通達されたが、基準を満たすことができる場合はそれが奨励されているため、今回の予測に基準達成の遅れについてのデータは含まれていない。

中国では、販売台数が増加し、触媒装置に使われるプラチナも増加して、自動車のプラチナ需要は27%(1.8トン)増加するだろう。普通乗用車に適用される排ガス基準の規制は6ヶ月延期されたが、大型車両では今年導入される国VI排ガス基準に適用するために約25%の大型車両に排ガス抑制装置が搭載される予定だ。

インドとメキシコを含むその他の地域では、感染症拡大阻止のロックダウンが長引いているため、今後のプラチナ需要は19%(3.4トン)減少するだろう。インドでは自動車メーカーがコロナ禍からの回復努力の一貫として、政府に対して企業平均燃費クレジット制度(CAFC)導入を遅らせるよう要請をしたが、現在のところ正式な回答は得られていない。車以外のカテゴリーではインド政府が10月1日に予定している建設機械などに対する排ガス規制の次の段階を遅らせることについて意見調整を募っている。

宝飾品需要

宝飾品のプラチナ需要予測はマイナス 14% (8.9 トン減) で 56.4 トン。今年前半は感染症拡大で小売が制限され、景気後退を危惧して消費者が消費を控えたが、我々は中国が素早く回復し、そのほかの地域の回復も予想より早い可能性があり、外出制限から解放された消費者が今後旺盛な購買欲を見せて今年前半の損失をカバーすると期待している。

全体的には中国のプラチナ宝飾品需要は前年と変わらず、年間総需要はマイナス 12% (3.2 トン減) で 23.9 トンとなる予想。小売業者も消費者もゴールドとプラチナ価格の上昇が今後も続くことを期待してプラチナ宝飾品への関心を支えるだろう。さらにプラチナ宝飾品のゴールド宝飾品に対する割安感、斬新なデザイン、マーケティング努力が今後の需要に繋がるだろう。

欧州と北米の6月、7月の販売高は、それが今後の回復が期待できる幸先の良いスタートなのか、あるいは消費者が外出制限中の不満を解消したための一時的な増加だったのか図りかねるところがあった。北米の場合は実際感染症の拡大が止まらずプラチナ宝飾品販売に水をさしていることから、この増加が一時的な増加だった可能性が高く、第4四半期まで待たなければ需要の本当の回復はないかもしれない。高級宝飾品、時計の製造輸出は東アジアからの注文が戻ったことから予想よりも良い結果となった。

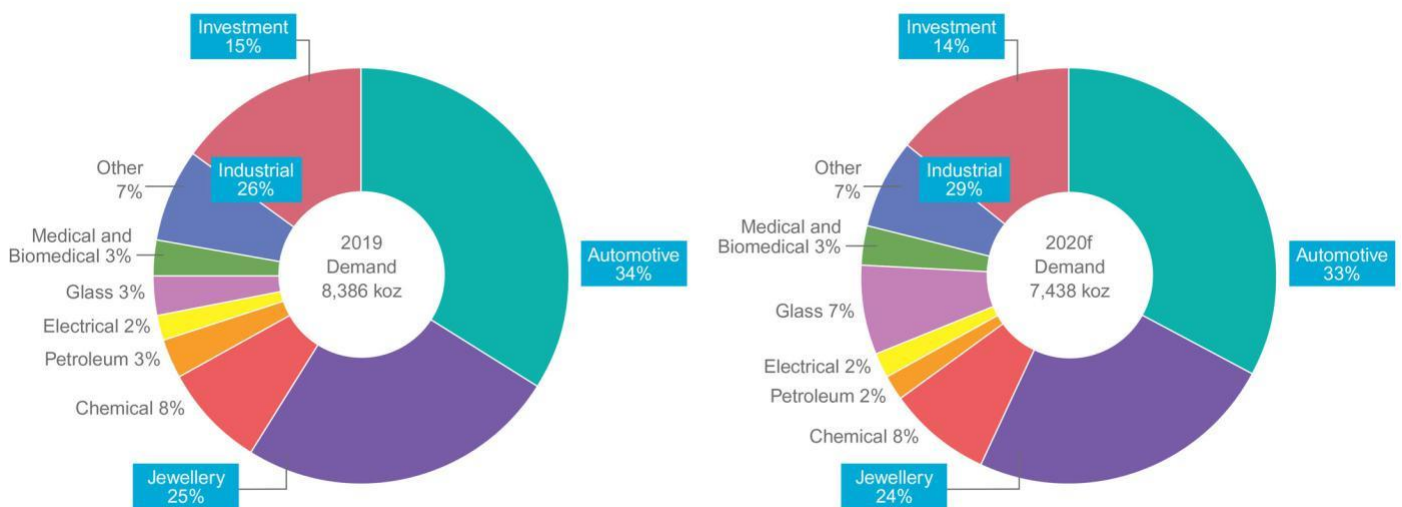
世界のブライダル市場は婚約の最盛期に近いことと、コロナ禍で延期された結婚式が順次行われることで順調に回復するだろう。今はあからさまな消費が敬遠されるために高級宝飾品と時計の販売の回復には時間がかかるかもしれないが、主要ブランドは2019年終わりからくすぶっていた米中貿易戦争を懸念し、在庫を多く抱えずして2020年をスタートさせたため影響は少ないかもしれない。

今年のインドのプラチナ宝飾品需要は45% (1.4 トン) 減少して1.7 トンとなる予測で、経済の鈍化とコロナ禍で失業率が増加したことで贅沢品の消費に影響が出るだろう。小売業者は新たに商品を発注する前にまずは在庫を軽減することを図るだろう。

工業需要

工業需要は年末までには前年度とほとんど変わらず(0.2 トン)、66.4 トンに回復するだろう。

チャート8：2020年第2四半期と2019年の用途別需要分布



提供：メタルズフォーカス社

化学

今年下半期には経済活動が立ち直って、化学産業のプラチナ需要も回復し、中国では新しいパラキシレンとプロパン脱水素装置施設が完成して需要回復に一役買うだろう。通年ではプラチナ需要はマイナス 14% (3 トン) で 18.4 トンとなる予測。

石油

原油価格の回復に現れているように石油業界のセンチメントは上向きになってきている。しかし感染症のさらなる拡大とそれに伴う部分的なロックダウンで回復傾向がどの程度確実なものか分からないため、今後の展望は予断を許さない。さらに今年は世界中でエネルギー投資が低下しており、中でも石油と天然ガスへの投資は過去最少となる予測があり、石油精製産業はその影響を受けざるを得ないだろう。全般的に石油のプラチナ需要はマイナス 44% (3 トン) という大幅な減少で 3.8 トンとなる見込み。

電子材

クラウドやビッグデータを保存するニーズが増え、それに応えるために高密度ドライブに加えるプレートが増えることでドライブに使われるプラチナが増える方向にあることで、この分野の需要減少を相殺するだろう。来年に商業化が予定されている HAMR (熱アシスト磁気記録) と MAMR (マイクロ波磁気記録) を含む次世代高密度ハードディスクドライブでハードディスクドライブがデータ保存において費用的に有利であることが認識されるだろう。今年の電子材のプラチナ需要はマイナス 6% (0.3 トン減) で 4.2 トンとわずかな減少にとどまるという予測。

医療

今年上半期の持ち堪えと、中国やインドで医療、製薬会社の回復が期待されることから全体の需要は前年と変わらない予測。

Glass

液晶ディスプレイ用ガラスは回路基板の品不足で価格が上昇しているため、生産能力拡大のための投資は計画通り実行されるだろう。さらに感染症拡大の影響で延期された規模拡大計画が実施されて下半期は生産規模が増大し、第 1 四半期よりもプラチナ需要も増えるだろう。一つ気になる点はコロナ禍で移動が制限されて外国からの技術者が中国の工場へ行くのが遅れるかもしれないということだ。

グラスファイバー市場は回復の兆しがあるものの年内の需要の伸びはあまり期待できそうにない。しかしここ数年顕著な拡大傾向にあったため、今年の投資が緩やかになるのは致し方ないだろう。ある大手企業は最近の業績発表会で今年前期以降の新たな投資計画はないと言及している。2020 年のガラス産業のプラチナ需要は 16.7 トンという予測。

その他

その他の工業分野のプラチナ需要予想は、自動車生産の減少で内燃機関の点火プラグやセンサーの需要が減ったことから、前年比マイナス 14% (2.6 トン減) で 15.4 トンとなるだろう。

投資需要

インゴットとコイン、ETF 保有量、取引所保有在庫を含む投資需要はマイナス 15% (6 トン減)となる予測。インゴットとコイン、取引所保有在庫の増加よりも、2019 年に非常に高かった ETF 需要が減少する分が大きいと思われる。

今年は、全ての主要市場で需要が伸びているインゴットとコインの需要が前年比 2 倍以上の 18.7 トンになると期待される。第 1 四半期後半に小売の買い上げが大幅に増えたために今期と来期の新しいインゴットとコインの品不足を招いており、特に北米では商品によっては供給に支障が出ているために、現時点で小売のプラチナ需要を正確に予測するのは困難である。

日本では、下半期は円建てのプラチナ価格が上昇するとみられることと、6 月までにかなりの量が投資家によって買われたこととで、今後はインゴットとコインの需要は減少するとみられる。実際、これからは売り越しで終わる月があっても不思議ではない。したがって今年の日本のプラチナ投資需要は 8.7 トンとなる予測。

プラチナ ETF は今期の好調だったおかげで、今年上半期の売り越し量は下半期の買い越し量に相殺され、年度末までに買い越し 5 トンとなるだろう。前述したように 7 月から 8 月の取引所指定倉庫への増加は続いており、現状の先物とスポットの価格乖離による裁定取引の状況とロジスティクス上の問題は下半期も続き、取引所保有在庫が増えて 9.3 トンとなるという予測。

地上在庫

上記全てを考慮し、今年の市場は 10.4 トンの品不足となり、その結果、年度末の地上在庫は 99.2 トンとなるだろう。

表2：供給、需要、地上在庫のまとめ — 年間比較

| | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020f | 2020f/2019 Growth % |
|--|---------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|----------------|--------------|------------------------|
| Platinum Supply-demand Balance (koz) | | | | | | | | | |
| SUPPLY | | | | | | | | | |
| Refined Production | 6,060 | 4,865 | 6,155 | 6,030 | 6,125 | 6,125 | 6,094 | 5,167 | -15% |
| South Africa | 4,345 | 3,125 | 4,475 | 4,250 | 4,380 | 4,470 | 4,402 | 3,517 | -20% |
| Zimbabwe | 405 | 405 | 405 | 490 | 480 | 465 | 455 | 453 | -1% |
| North America | 355 | 395 | 365 | 390 | 360 | 345 | 356 | 372 | 4% |
| Russia | 740 | 740 | 710 | 715 | 720 | 665 | 716 | 654 | -9% |
| Other | 215 | 200 | 200 | 185 | 185 | 180 | 164 | 171 | 4% |
| Increase (-)/Decrease (+) in Producer Inventory | -215 | +350 | +30 | +30 | +30 | +10 | +2 | +20 | >±300% |
| Total Mining Supply | 5,845 | 5,215 | 6,185 | 6,060 | 6,155 | 6,135 | 6,097 | 5,187 | -15% |
| Recycling | 1,980 | 2,035 | 1,705 | 1,840 | 1,895 | 1,935 | 2,165 | 1,915 | -12% |
| Autocatalyst | 1,120 | 1,255 | 1,185 | 1,210 | 1,325 | 1,420 | 1,630 | 1,471 | -10% |
| Jewellery | 855 | 775 | 515 | 625 | 560 | 505 | 477 | 388 | -19% |
| Industrial | 5 | 5 | 5 | 5 | 10 | 10 | 58 | 57 | -3% |
| Total Supply | 7,825 | 7,250 | 7,890 | 7,900 | 8,050 | 8,070 | 8,261 | 7,102 | -14% |
| DEMAND | | | | | | | | | |
| Automotive | 3,125 | 3,245 | 3,370 | 3,445 | 3,320 | 3,090 | 2,894 | 2,429 | -16% |
| Autocatalyst | 2,985 | 3,095 | 3,230 | 3,310 | 3,180 | 2,945 | 2,894 | 2,429 | -16% |
| Non-road | 140 | 150 | 140 | 135 | 140 | 145 | † | † | † |
| Jewellery | 2,945 | 3,000 | 2,840 | 2,505 | 2,460 | 2,245 | 2,100 | 1,813 | -14% |
| Industrial | 1,485 | 1,575 | 1,685 | 1,790 | 1,685 | 1,920 | 2,140 | 2,136 | 0% |
| Chemical | 535 | 540 | 505 | 560 | 565 | 570 | 692 | 593 | -14% |
| Petroleum | 50 | 65 | 205 | 215 | 100 | 235 | 219 | 122 | -44% |
| Electrical | 195 | 215 | 205 | 195 | 210 | 205 | 145 | 136 | -6% |
| Glass | 145 | 175 | 200 | 205 | 180 | 245 | 259 | 540 | 108% |
| Medical and Biomedical | 220 | 220 | 225 | 230 | 235 | 240 | 249 | 249 | 0% |
| Other | 340 | 360 | 345 | 385 | 395 | 425 | 577 | 495 | -14% |
| Investment | 935 | 150 | 305 | 535 | 275 | 15 | 1,252 | 1,060 | -15% |
| Change in Bars, Coins | -5 | 50 | 525 | 460 | 215 | 280 | 281 | 600 | 113% |
| Change in ETF Holdings | 905 | 215 | -240 | -10 | 105 | -245 | 991 | 160 | -84% |
| Change in Stocks Held by Exchanges | 35 | -115 | 20 | 85 | -45 | -20 | -20 | 300 | N/A |
| Total Demand | 8,490 | 7,970 | 8,200 | 8,275 | 7,740 | 7,270 | 8,386 | 7,438 | -11% |
| Balance | -665 | -720 | -310 | -375 | 310 | 800 | -125 | -336 | N/A |
| Above Ground Stocks | 3,475* | 2,755 | 2,445 | 2,070 | 2,380 | 3,180 | 3,525** | 3,189 | -10% |

提供：メタルズフォーカス社（2019年から2020年）、SFA（オックスフォード）社（2013年から2018年）

注：

1. 地上在庫：*128.8トン 2012年12月31日現在（SFA（オックスフォード）社）。**113.5トン 2018年12月31日現在（メタルズフォーカス社）。
2. †道路を通行する車両以外の自動車需要は浄化触媒装置需要に含まれる。
3. メタルズフォーカス社、SFA（オックスフォード）社のデータは必ずしも同じ比較対象ベースを使っているわけではない。
4. 2019年以前のSFA（オックスフォード）社のデータはそれぞれ単独で5koz単位で四捨五入。

表3：需要と供給のまとめ—四半期ごとの比較

| | Q2 2018 | Q3 2018 | Q4 2018 | Q1 2019 | Q2 2019 | Q3 2019 | Q4 2019 | Q1 2020 | Q2 2020 | Q2'20/Q2'19 Growth % | Q2'20/Q1'20 Growth % |
|--|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|-------------------------|-------------------------|
| Platinum Supply-demand Balance (koz) | | | | | | | | | | | |
| SUPPLY | | | | | | | | | | | |
| Refined Production | 1,605 | 1,665 | 1,565 | 1,320 | 1,665 | 1,530 | 1,579 | 1,243 | 954 | -43% | -23% |
| South Africa | 1,160 | 1,230 | 1,170 | 874 | 1,218 | 1,122 | 1,189 | 832 | 532 | -56% | -36% |
| Zimbabwe | 115 | 120 | 120 | 113 | 120 | 116 | 106 | 118 | 114 | -5% | -4% |
| North America | 85 | 90 | 90 | 85 | 99 | 79 | 94 | 98 | 87 | -12% | -11% |
| Russia | 200 | 180 | 145 | 204 | 189 | 174 | 149 | 150 | 177 | -6% | 18% |
| Other | 45 | 45 | 40 | 44 | 40 | 40 | 41 | 45 | 44 | 11% | -2% |
| Increase (-)/Decrease (+) in Producer Inventory | +55 | -20 | -20 | 12 | -28 | -30 | 48 | 41 | 36 | N/A | -13% |
| Total Mining Supply | 1,660 | 1,645 | 1,545 | 1,332 | 1,637 | 1,501 | 1,627 | 1,284 | 989 | -40% | -23% |
| Recycling | 480 | 490 | 495 | 549 | 520 | 540 | 556 | 489 | 419 | -19% | -14% |
| Autocatalyst | 345 | 365 | 380 | 413 | 387 | 410 | 420 | 406 | 309 | -20% | -24% |
| Jewellery | 135 | 125 | 115 | 120 | 119 | 116 | 121 | 70 | 97 | -18% | 39% |
| Industrial | 0 | 0 | 0 | 15 | 14 | 14 | 15 | 14 | 13 | -4% | -1% |
| Total Supply | 2,140 | 2,135 | 2,040 | 1,881 | 2,157 | 2,041 | 2,183 | 1,773 | 1,408 | -35% | -21% |
| DEMAND | | | | | | | | | | | |
| Automotive | 815 | 715 | 765 | 766 | 747 | 678 | 703 | 663 | 386 | -48% | -42% |
| Autocatalyst | 770 | 680 | 730 | 766 | 747 | 678 | 703 | 663 | 386 | -48% | -42% |
| Non-road | 40 | 35 | 40 | † | † | † | † | † | † | † | † |
| Jewellery | 570 | 550 | 560 | 539 | 540 | 510 | 510 | 394 | 392 | -27% | -1% |
| Industrial | 475 | 470 | 495 | 506 | 574 | 614 | 447 | 499 | 428 | -25% | -14% |
| Chemical | 135 | 155 | 135 | 138 | 200 | 162 | 191 | 157 | 119 | -41% | -25% |
| Petroleum | 55 | 55 | 55 | 55 | 55 | 55 | 55 | 38 | 29 | -47% | -24% |
| Electrical | 50 | 50 | 55 | 35 | 36 | 38 | 36 | 32 | 34 | -5% | 6% |
| Glass | 60 | 65 | 65 | 71 | 71 | 144 | -26 | 98 | 82 | 15% | -17% |
| Medical and Biomedical | 70 | 45 | 70 | 62 | 67 | 72 | 47 | 59 | 64 | -5% | 8% |
| Other | 105 | 100 | 115 | 145 | 144 | 143 | 145 | 115 | 101 | -30% | -12% |
| Investment | -55 | 65 | -65 | 794 | 126 | 251 | 82 | 79 | 393 | 212% | >±300% |
| Change in Bars, Coins | 70 | 70 | 50 | 111 | 89 | 53 | 28 | 312 | 133 | 49% | -58% |
| Change in ETF Holdings | -125 | 5 | -115 | 687 | 50 | 207 | 47 | -213 | 122 | 145% | N/A |
| Change in Stocks Held by Exchanges | 0 | -10 | 0 | -4 | -13 | -10 | 6 | -20 | 138 | N/A | N/A |
| Total Demand | 1,805 | 1,800 | 1,755 | 2,605 | 1,986 | 2,053 | 1,742 | 1,635 | 1,599 | -19% | -2% |
| Balance | 335 | 335 | 285 | -724 | 171 | -12 | 440 | 138 | -191 | N/A | N/A |

提供：メタルズフォーカス社（2019年から2020年）、SFA（オックスフォード）社（2013年から2018年）

注：

- †道路を通行する車両以外の自動車需要は浄化触媒装置需要に含まれる。
- メタルズフォーカス社、SFA（オックスフォード）社のデータは必ずしも同じ比較対象ベースを使っているわけではない。
- 2019年以前のSFA（オックスフォード）社のデータはそれぞれ単独で5koz単位で四捨五入。

表4：需要と供給のまとめ一半年ごとの比較

| | H1 2018 | H2 2018 | H1 2019 | H2 2019 | H1 2020 | H1'20/H1'19 Growth % | H1'20/H2'19 Growth % |
|--|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|-------------------------|-------------------------|
| Platinum Supply-demand Balance (koz) | | | | | | | |
| SUPPLY | | | | | | | |
| Refined Production | 2,905 | 3,230 | 2,985 | 3,110 | 2,196 | -26% | -29% |
| South Africa | 2,075 | 2,400 | 2,091 | 2,311 | 1,364 | -35% | -41% |
| Zimbabwe | 230 | 240 | 233 | 222 | 232 | 0% | 4% |
| North America | 175 | 180 | 184 | 173 | 185 | 0% | 7% |
| Russia | 340 | 325 | 393 | 324 | 327 | -17% | 1% |
| Other | 85 | 85 | 84 | 81 | 88 | 6% | 10% |
| Increase (-)/Decrease (+) in Producer Inventory | +50 | -40 | -15 | +18 | +77 | N/A | >±300% |
| Total Mining Supply | 2,955 | 3,190 | 2,969 | 3,127 | 2,273 | -23% | -27% |
| Recycling | 940 | 985 | 1,069 | 1,096 | 909 | -15% | -17% |
| Autocatalyst | 675 | 745 | 800 | 830 | 715 | -11% | -14% |
| Jewellery | 265 | 240 | 240 | 237 | 167 | -30% | -30% |
| Industrial | 0 | 0 | 29 | 29 | 27 | -7% | -7% |
| Total Supply | 3,895 | 4,175 | 4,038 | 4,224 | 3,181 | -21% | -25% |
| DEMAND | | | | | | | |
| Automotive | 1,615 | 1,480 | 1,513 | 1,381 | 1,049 | -31% | -24% |
| Autocatalyst | 1,535 | 1,410 | 1,513 | 1,381 | 1,049 | -31% | -24% |
| Non-road | 75 | 75 | † | † | † | † | † |
| Jewellery | 1,150 | 1,110 | 1,079 | 1,021 | 786 | -27% | -23% |
| Industrial | 950 | 965 | 1,079 | 1,061 | 927 | -14% | -13% |
| Chemical | 280 | 290 | 339 | 353 | 276 | -19% | -22% |
| Petroleum | 110 | 110 | 109 | 109 | 66 | -39% | -39% |
| Electrical | 105 | 105 | 71 | 74 | 66 | -7% | -11% |
| Glass | 120 | 130 | 142 | 118 | 179 | 27% | 52% |
| Medical and Biomedical | 125 | 115 | 130 | 119 | 123 | -5% | 3% |
| Other | 210 | 215 | 289 | 288 | 216 | -25% | -25% |
| Investment | 5 | 0 | 920 | 332 | 472 | -49% | 42% |
| Change in Bars, Coins | 155 | 120 | 200 | 82 | 445 | 123% | >±300% |
| Change in ETF Holdings | -140 | -110 | 737 | 254 | -91 | N/A | N/A |
| Change in Stocks Held by Exchanges | -10 | -10 | -17 | -4 | 118 | N/A | N/A |
| Total Demand | 3,720 | 3,555 | 4,591 | 3,795 | 3,234 | -30% | -15% |
| Balance | 175 | 620 | -553 | 429 | -53 | N/A | N/A |

提供：メタルズフォーカス社（2019年から2020年）、SFA（オックスフォード）社（2013年から2018年）

注：

- †道路を通行する車両以外の自動車需要は浄化触媒装置需要に含まれる。
- メタルズフォーカス社、SFA（オックスフォード）社のデータは必ずしも同じ比較対象ベースを使っているわけではない。
- 2019年以前のSFA（オックスフォード）社のデータはそれぞれ単独で5koz単位で四捨五入。

表5：地域毎の需要—各年と四半期比較

| | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020f | 2020f/2019 Growth % | Q2 2019 | Q3 2019 | Q4 2019 | Q1 2020 | Q2 2020 |
|---|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------------------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| Platinum gross demand (koz) | | | | | | | | | | | | | | |
| Automotive | 3,120 | 3,250 | 3,370 | 3,445 | 3,320 | 3,095 | 2,894 | 2,429 | -16% | 747 | 678 | 703 | 663 | 386 |
| North America | 420 | 465 | 505 | 460 | 425 | 430 | 342 | | | | | | | |
| Western Europe | 1,350 | 1,400 | 1,550 | 1,705 | 1,555 | 1,295 | 1,443 | | | | | | | |
| Japan | 580 | 590 | 510 | 450 | 440 | 430 | 327 | | | | | | | |
| China | 130 | 125 | 125 | 160 | 190 | 180 | 217 | | | | | | | |
| India | 165 | 170 | 175 | 170 | 175 | 195 | †† | | | | | | | |
| Rest of the World | 475 | 500 | 505 | 500 | 535 | 565 | 565 | | | | | | | |
| Jewellery | 2,945 | 3,000 | 2,840 | 2,505 | 2,460 | 2,245 | 2,100 | 1,813 | -14% | 540 | 510 | 510 | 394 | 392 |
| North America | 200 | 230 | 250 | 265 | 280 | 280 | 341 | | | | | | | |
| Western Europe | 220 | 220 | 235 | 240 | 250 | 255 | 237 | | | | | | | |
| Japan | 335 | 335 | 340 | 335 | 340 | 345 | 372 | | | | | | | |
| China | 1,990 | 1,975 | 1,765 | 1,450 | 1,340 | 1,095 | 871 | | | | | | | |
| India | 140 | 175 | 180 | 145 | 175 | 195 | 102 | | | | | | | |
| Rest of the World | 60 | 65 | 70 | 70 | 75 | 75 | 177 | | | | | | | |
| Chemical | 535 | 540 | 505 | 560 | 565 | 570 | 692 | 593 | -14% | 200 | 162 | 191 | 157 | 119 |
| North America | 55 | 55 | 50 | 50 | 50 | 50 | 77 | | | | | | | |
| Western Europe | 110 | 105 | 75 | 110 | 115 | 110 | 125 | | | | | | | |
| Japan | 10 | 10 | 10 | 15 | 15 | 15 | 66 | | | | | | | |
| China | 195 | 215 | 230 | 225 | 215 | 215 | 220 | | | | | | | |
| Rest of the World | 165 | 155 | 140 | 160 | 170 | 180 | 204 | | | | | | | |
| Petroleum | 50 | 65 | 205 | 215 | 100 | 235 | 219 | 122 | -44% | 55 | 55 | 55 | 38 | 29 |
| North America | 40 | 25 | -25 | 90 | 55 | 55 | 30 | | | | | | | |
| Western Europe | -45 | -15 | 70 | 10 | 5 | 20 | 14 | | | | | | | |
| Japan | 10 | -35 | 5 | 0 | -40 | 5 | 7 | | | | | | | |
| China | 80 | -5 | 45 | 80 | 45 | 10 | 66 | | | | | | | |
| Rest of the World | -35 | 95 | 110 | 35 | 35 | 145 | 103 | | | | | | | |
| Electrical | 195 | 215 | 205 | 195 | 210 | 205 | 145 | 136 | -6% | 36 | 38 | 36 | 32 | 34 |
| North America | 10 | 15 | 15 | 10 | 15 | 15 | 38 | | | | | | | |
| Western Europe | 5 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 27 | | | | | | | |
| Japan | 15 | 15 | 15 | 15 | 15 | 15 | 20 | | | | | | | |
| China | 75 | 70 | 70 | 80 | 90 | 85 | 28 | | | | | | | |
| Rest of the World | 90 | 105 | 95 | 80 | 80 | 80 | 31 | | | | | | | |
| Glass | 145 | 175 | 200 | 205 | 180 | 245 | 259 | 540 | 108% | 71 | 144 | -26 | 98 | 82 |
| North America | 5 | 10 | 0 | 20 | 5 | 5 | 7 | | | | | | | |
| Western Europe | -10 | 15 | 10 | 5 | 5 | 35 | 59 | | | | | | | |
| Japan | 0 | -25 | -5 | -10 | -10 | 0 | -132 | | | | | | | |
| China | 90 | 85 | 95 | 100 | 85 | 75 | 217 | | | | | | | |
| Rest of the World | 60 | 90 | 100 | 90 | 95 | 130 | 109 | | | | | | | |
| Medical | 220 | 220 | 225 | 230 | 235 | 240 | 249 | 249 | 0% | 67 | 72 | 47 | 59 | 64 |
| Other industrial | 340 | 360 | 345 | 385 | 395 | 425 | 577 | 495 | -14% | 144 | 143 | 145 | 115 | 101 |
| Bar & Coin Investment | -5 | 50 | 525 | 460 | 215 | 280 | 281 | 600 | 113% | 89 | 53 | 28 | 312 | 133 |
| North America | | | | | | | 159 | | | | | | | |
| Western Europe | | | | | | | 52 | | | | | | | |
| Japan | | | | | | | 46 | | | | | | | |
| Rest of the World | | | | | | | 24 | | | | | | | |
| ETF Investment | 905 | 215 | -240 | -10 | 105 | -245 | 991 | 160 | 99% | 50 | 207 | 47 | -213 | 122 |
| North America | | | | | | | 125 | | | | | | | |
| Western Europe | | | | | | | 509 | | | | | | | |
| Japan | | | | | | | -13 | | | | | | | |
| Rest of the World | | | | | | | 370 | | | | | | | |
| Change in Stocks Held by Exchanges | 35 | -115 | 20 | 85 | -45 | -20 | -20 | 300 | 0% | -13 | -10 | 6 | -20 | 138 |
| Investment | 935 | 150 | 305 | 535 | 275 | 15 | 1,252 | 1,060 | -11% | 126 | 251 | 82 | 79 | 393 |
| Total Demand | 8,485 | 7,975 | 8,200 | 8,275 | 7,740 | 7,275 | 8,387 | 7,438 | -11% | 1,986 | 2,053 | 1,742 | 1,635 | 1,599 |

提供：メタルズフォーカス社（2019年から2020年）、SFA（オックスフォード）社（2013年から2018年）

注：

- †道路を通行する車両以外の自動車需要は浄化触媒装置需要に含まれる。
- †† インドの自動車需要はその他の地域に含まれる。
- メタルズフォーカス社、SFA（オックスフォード）社のデータは必ずしも同じ比較対象ベースを使っているわけではない。
- 2019年以前以前のSFA（オックスフォード）社のデータはそれぞれ単独で5koz単位で四捨五入。

表6：地域毎のリサイクル供給—各年と四半期比較

| | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020f | 2020f/2019 Growth % | Q2 2019 | Q3 2019 | Q4 2019 | Q1 2020 | Q2 2020 |
|--|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------------------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| Platinum recycling supply (koz) | | | | | | | | | | | | | | |
| Automotive | 1,120 | 1,255 | 1,185 | 1,210 | 1,325 | 1,420 | 1,630 | 1,471 | -10% | 387 | 410 | 420 | 406 | 309 |
| North America | | | | | | | 520 | | | | | | | |
| Western Europe | | | | | | | 847 | | | | | | | |
| Japan | | | | | | | 116 | | | | | | | |
| China | | | | | | | 37 | | | | | | | |
| Rest of the World | | | | | | | 110 | | | | | | | |
| Jewellery | 855 | 775 | 515 | 625 | 560 | 505 | 477 | 97 | -80% | 119 | 116 | 121 | 70 | 97 |
| North America | | | | | | | 3 | | | | | | | |
| Western Europe | | | | | | | 4 | | | | | | | |
| Japan | | | | | | | 187 | | | | | | | |
| China | | | | | | | 276 | | | | | | | |
| Rest of the World | | | | | | | 5 | | | | | | | |
| Industrial | 5 | 5 | 5 | 5 | 10 | 10 | 58 | 57 | -2% | 14 | 14 | 15 | 14 | 13 |
| North America | | | | | | | 3 | | | | | | | |
| Western Europe | | | | | | | 11 | | | | | | | |
| Japan | | | | | | | 34 | | | | | | | |
| China | | | | | | | 7 | | | | | | | |
| Rest of the World | | | | | | | 2 | | | | | | | |

提供：メタルズフォーカス社（2019年から2020年）、SFA（オックスフォード）社（2017年から2018年）

免責事項: 当出版物は一般的なもので、唯一の目的は知識を提供することである。当出版物の発行者、ワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシルは、世界の主要なプラチナ生産会社によってプラチナ投資需要発展のために設立されたものであるその使命は、それによって行動を起こすことができるような見識と投資家向けの商品開発を通じて現物プラチナに対する投資需要を喚起すること、プラチナ投資家の判断材料となりうる信頼性の高い情報を提供すること、そして金融機関と市場参加者と協力して投資家が必要とする商品や情報ルートを提供することである。当出版物のいかなる部分も出典の明記なしでいかなる形によっても転載あるいは配布することはできない。当出版物に掲載された2019年と2020年のメタルズフォーカス社によるリサーチおよび解説はメタルズフォーカス社が著作権を有するものである。当出版物に掲載されたデータおよび解説の中の全ての著作権およびその他の知的財産権はメタルズフォーカス社に属し、発行者への第三者コンテンツ提供者である同社のみがその情報及びデータの中の知的財産権の登録をする権利がある。メタルズフォーカス社の分析、データ、その他の関連情報は掲載時点でのメタルズフォーカス社の判断を表したものであり、予告なく変更されることがある。当該データ及び解説のいかなる部分もメタルズフォーカス社の書面による承諾なしに資本市場（資金調達）のために使用することはできない。

当出版物に掲載された2013年から2018年のSFA社によるリサーチはSFA社が著作権を有するものである。当出版物に掲載された2013年から2018年のデータの全ての著作権およびその他の知的財産権はSFA社に属し、発行者への第三者コンテンツ提供者である同社のみがその情報及びデータの中の知的財産権の登録をする権利がある。SFA社の分析、データ、その他の関連情報は掲載時点でのSFA社の判断を表したものであり、予告なく変更されることがある。当該データ及び解説のいかなる部分もSFA社の書面による承諾なしに資本市場（資金調達）のために使用することはできない。

当出版物は有価証券の売買を提案または勧誘するものではなく、またそのような提案または勧誘とみなされるべきものでもない。当出版物によって、出版者およびコンテンツ提供者は、それが明示されているか示唆されているかにかかわらず、有価証券あるいは商品取引の注文を発注、手配、助言、仲介、奨励する意図はない。当出版物は税務、法務、投資に関する助言を提案する意図はなく、当出版物のいかなる部分も投資商品及び有価証券の購入及び売却、投資戦略あるいは取引を推薦するものとみなされるべきでない。発行者、コンテンツ提供者はブローカー・ディーラーでも、また2000年金融サービス市場法、Senior Managers and Certifications Regime 及び金融行動監視機構を含むアメリカ合衆国及びイギリス連邦の法律に登録された投資アドバイザーでもなく、及びそのようなものと称していることもない。

当出版物は特定の投資家を対象とした、あるいは特定の投資家のための専有的な投資アドバイスではなく、またそのようなものとみなされるべきではない。どのような投資も専門の投資アドバイザーに助言を求めた上でなされるべきである。いかなる投資、投資戦略、あるいは関連した取引もそれが適切であるかどうかの判断は個人の投資目的、経済的環境、及びリスク許容度に基づいて個々人の責任でなされるべきである。具体的なビジネス、法務、税務上の状況に関してはビジネス、法務、税務及び会計アドバイザーに助言を求めべきである。

当出版物は信頼できる情報に基づいているが、出版者とコンテンツ提供者が、情報の正確性及び完全性を保証するものではない。当出版物は業界の継続的な成長予測に関する供述を含む、将来の予測に言及している。出版者とメタルズフォーカス社は当出版物に含まれる、過去の情報以外の全ての予測は、実際の結果に影響を与えるリスクと不確定要素を伴うことを認識しているが、出版者とコンテンツ提供者は、当出版物の情報に起因して生じるいかなる損失あるいは損害に関して、一切の責任を負わないものとする。

ワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシルのロゴ、商標、及びトレードマークは全てワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシルに帰属する。当出版物に掲載されているその他の商標はそれぞれの商標登録者に帰属する。発行者は明記されていない限り商標登録者とは一切提携、連結、関連しておらず、また明記されていない限り商標登録者から支援や承認を受けていることはなく、また商標登録者によって設立されたものではない。発行者によって非当事者商標に対するいかなる権利の請求も行われない。

WPIC のリサーチと第2次金融商品市場指令 (MIFID II)

ワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシル(以下 WPIC) は第2次金融商品市場指令に対応するために出版物と提供するサービスに関して内部及び外部による再調査を行った。その結果として、我々のリサーチサービスの利用者とそのコンプライアンス部及び法務部に対して以下の報告を行う:

WPIC のリサーチは明確に Minor Non-Monetary Benefit Category に分類され、全ての資産運用マネジャーに、引き続き無料で提供することができる。また WPIC リサーチは全ての投資組織で共有することができる。

WPIC はいかなる金融商品取引も行わない。WPIC はマーケットメイク取引、セールストレード、トレーディング、有価証券に関わるディーリングを一切行わない。(勧誘することもない。)

WPIC 出版物の内容は様々な手段を通じてあらゆる個人・団体に広く配布される。したがって第2次金融商品市場指令(欧州証券市場監督機構・金融行動監視機構・金融市場庁)において、Minor Non-Monetary Benefit Category に分類される。WPIC のリサーチは WPIC のウェブサイトより無料で取得することができる。WPIC のリサーチを掲載する環境へのアクセスにはいかなる承認取得も必要ない。

WPIC は、我々のリサーチサービスの利用者からいかなる金銭的報酬も受けることはなく、要求することもない。WPIC は機関投資家に対して、我々の無償のコンテンツを使うことに対していかなる金銭的報酬も要求しないことを明確にしている。

さらに詳細な情報は WPIC のウェブサイトを参照。 website: <http://www.platinuminvestment.com/investment-research/mifid-ii>

当和訳は英語原文を翻訳したもので、和訳はあくまでも便宜的なものとして提供され、英語原文と和訳に矛盾がある場合、英語原文が優先する。